

# 窓

—同窓会だより—

No. 110 (令和 3. 2. 28発行)

富山県立魚津高等学校同窓会



- 1面 同窓生寄稿
- 2面 学校長寄稿
- 3面 同窓生寄稿
- 4面 魚津高校教諭、魚高生の活躍



## ユーラシア大陸横断徒歩旅行 序の巻

あるきすと・ライター 平田 裕 (33回生)

東京での大学受験時に泊めてもらっていた魚津高校の先輩のアパートで。「平田が合格してこつちに出てきたら、なんかおもしろいことせんけ。そうやな、夏休みに一緒に富山まで歩いて帰らんまいけ。」ああ、敬愛する先輩のこのひとことが僕の人生を台無しにしてくれるとは…。

横浜の大学に進んだ僕は夏休みに先輩との徒歩旅行を決行すべく準備を整えていた。先輩は、長野ルートだと山がちだしトンネルが多くて危険なので、距離がぐーんと長くなるけど平坦な東海道を下って琵琶湖から北陸道を北上するルートを計画していた。

出発前日に電話が鳴った。てっきり翌朝の出発時刻の連絡だと思ったら、「わりのい。オレやつぱり歩いて帰るん、やめるちや。さっき初めて電話で親に伝えたら、『そいダラで危ないことはやめてくれ』って電話口でえんえん泣かれてよお。だからオレやめるちや」

ガチャ。ツーツー。受話器を握りしめたまま茫然自失するしかなかった。計画立案は僕ではなく先輩だ。もともと僕が歩いて帰省したかったわけじゃない。単独でなんか歩けるもんか。しかし乗り出した船みたいなもんで、とりあえず歩けるところまで歩いてイヤになったら東海道線に乗っちゃおう！って投げやりな気分が横浜から歩き出したところ、なんと魚津まで約650キロを1ミリの途切れもなく18日間かけて完歩してしまっただけです。

そして2年後、今度は自分の意志で、芭蕉の奥の細道を東京深川から山形県鶴岡まで約700キロを23日間かけて歩いてしまいました。社会人になっても東京から山梨まで、横浜から荻窪までと、一日から数日歩く旅を繰り返しているうちに、できることなら世界最長の道を歩いてみたいなあと思ってしまうよう

になり、世界地図を広げてみたらどうやらそれはヨーロッパとアジアを含むユーラシア大陸横断らしい。さらに気分的には距離が短くなる同緯度を歩くより、子どもころから慣れ親しんだ海が見えるルートを歩きたい。10キロから15キロの荷物を担いで一日あたり30キロ前後を歩くとなるとそれなりに体力も必要だ。前例がないのでいったいどれほどの月数いや年数がかかるのか見当もつかない。

思えば思うほど空想に近い荒唐無稽な旅だ。なんとなく自分が30歳代になってしまえばそんな大風呂敷を広げたような旅を実行に移そうなんて気持ちは萎んでしまいそうだったから、思い切って29歳のときにフリーの週刊誌記者の仕事辞め、それまで貯めた300万円を旅費に、KLMオランダ航空の片道切符で成田から飛び立った。1991年7月のことだった。

スタート地点はユーラシア大陸最西端、ポルトガルのロカ岬だ。大西洋に面したロカ岬は落差100メートルの断崖絶壁で、海風に煽られた荒々しい白波が断崖に打ち寄せていた。それを眺めながらイワシの缶詰とバケツトで軽い昼食を済ませるとリュックサックを担いだ。

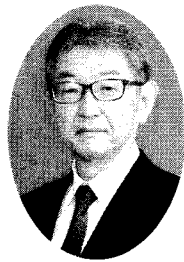
「よしっ、アジアに向かって歩いてやるぞ！」僕は大西洋に背を向け、東へと一歩を踏み出した。

ポルトガル、スペイン、フランス、モナコ、イタリア、スロベニア、クロアチア、ハンガリー、セルビア、コソボ、マケドニア、ギリシャ、トルコ、イラン、インド、バングラデシュ、ミャンマー、タイ、カンボジア、ベトナムをほぼ海沿いに歩き、2019年12月、中国江蘇省淮安市着。歩いた距離は2万7300キロ。ゴールの韓国プサンをめざす徒歩旅行はまだ終わってません(コロナで中断中)。

同窓会の皆様には、日頃より本校の教育活動に対してご理解ご支援を賜り、感謝申し上げます。学校を代表しまして、お礼を申し上げます。

さて、令和二年度は一学期始業式及び入学式直後から、新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休校で始まりしました。感染状況が落ち着いて六月一日より、感染予防策を徹底しながら学校教育活動が再開しました。コロナ禍の中、生徒は新しい生活様式のもと、「密閉」「密集」「密接」の

三つの条件の重なりを避け、健康観察表の記入、検温、手洗い、消毒、換気などを徹底し、感染拡大防止に努めています。健康



康で安心・安全に日常生活や学校生活を送りながら、学習や部活動、学校行事等に真摯に取り組んでいる生徒の姿から、力強さや頼もしさを感じることが出来ます。

また、本年度は全国高校総体、県高校総体、夏の高校野球選手権及び県予選大会の開催が中止となり、全国高総文祭は、参加生徒を集めないウェブ上で発表や交流の開催となりました。相次いで全国大会が中止となり、目標に向かって頑張ってきた生徒の気持ちを考えると、

とてもつらく残念でした。しかし、県高体連による「TOYAMA2020高等学校スポーツ交流大会」、県高野連による「TOYAMA2020高等学校野球大会」が開催され、参加した生徒にとっては素敵な思い出となったはずです。本校においても、「体育大会」、「二年生徒希望選択研修」、「アメリカ海外研修」など、本校ならではの特色ある行事が残念ながら中止となりました。様々な学校行事が中止や延期、規模縮小となりましたが、遠足、二学年

# 「コロナ禍の一年を振り返って」

校長 小泉 量 裕

用クラウドサービス(Google社G Suite for Education)を活用したオンラインによる授業・教材のコンテンツ配信、生徒への課題配布・回収等を行いました。教員も手探り状態の中、活用方法に関する研修会も行いました。ウイズ・コロナにおける「学び」の方法が大きく変わろうとしていますが、在校生には「紅はわが心 清らかに強くあれ」の魚高精神のもと、感染拡大を防止し、全員でこの難局を乗り切ってほしいと思います。そして、魚高生としての誇りと自信をもって、挑戦と努力を継続することを忘れずに、前を向いて進んでくれることを願っています。

終わりに、平成最後の

サッカー大会、創作ダンス発表会、文化部発表会、弁論大会など、徹底した感染対策を行いながら実施できました。特に「弁論大会」は、始終業式同様、各教室においてICT機器を使ったリモートでの開催とし、新たな実施方法として他の行事においても活用できる実践例となりました。また、県外・海外研修については、代替案を検討しているところです。

このように、令和二年度はこれまでに経験したことのない一年でした。臨時休校中、教育

年(平成三十一年)四月に校長として着任し、年号が令和となった十月に創立百二十周年記念式典を無事終え、本年三月末で定年退職いたします。在職中は多大なご厚情を賜り、深く感謝申し上げますとともに、同窓会の今後ますますのご発展並びに会員の皆様のご多幸とご健勝をご祈念いたします。今後とも本校の教育活動に対して更なるご理解ご支援をいただきますようお願い申し上げます。

# 奇跡のとやま・なんと国体2020



富山県総合政策局  
参事・スポーツ振興課長  
米山 隆 (魚高32回)

44年前に、魚津高校でラグビーに出会った。1学年時の県新人大会で優勝し、3学年時には、もう一人の同級生(高橋 聖君)とともに富山県選抜に選出され、北陸予選を勝ち上がり、宮崎国体に出場することができた。当初、家業(魚津駅前米山サイクル)を継ぐつもりでいたが、ラグビーが自分の人生を大きく変えることになった。

大学でラグビーを続け、富山県の体育教諭となり、高等学校に赴任した。残念ながら、母校のラグビー部を指導する機会には恵まれなかったが、ラグビー部のある魚津工業高校に奉職することになり、わずか4年間であったが、ラグビーにいそしむことができた。赴任当初は、魚津高校に大敗していたチームも徐々に力がついてきて、生徒共々本気で花園を目指し、充実した毎日を過ごした。同時に富山県少年選抜チームの監督を任せられ、そのまま監督として迎えるものと思っていた2000年とやま国体の5年前、急転直下、県全体のスポーツ強化を担う富山県競技力向上対策室に配属となり、ラグビーの指導は叶わなくなった。以来、学校を離れ、スポーツ行政機関に務め続け、25年になる。その間、2000年国体後の本県の競技力向上対策を検討する際に、同窓会の若林顧問に大変なご尽力をいただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。

温の高い厳しい状況の中、多くの方々の熱意と尽力により、全国47都道府県から選手団をお迎えし、大きな事故やトラブル等も無く、何とか全種目を予定どおり終了することができた。会場にほとんど雪がない1月下旬に富山県内で全日本スキー連盟と日本スポーツ協会、スポーツ庁と今後の対応や開催可否について検討会議を開催し、今後の降雪状況を確認しながら、2月7日に開催について公式発表する予定としたところ、直前の2月5日、6日にかけて一定の降雪があり、予定どおり開催すると発表できた。

しかしながら、その後、春一番が吹くなど、気温の高い状態が続き、せっかく降った雪が目に見えて少なくなっていく中、県スキー連盟、富山市、南砺市、陸上自衛隊、地元業者、地元ボランティアなど、多くの方々による不眠不休の雪入れ作業が大会前から大会中まで続き、何とか開催にこぎつけることができた。

さらには、神懸かり的に17日、18日にかけて再び降雪があり、覚悟していた会場変更も回避できた。

一方で、全国から参加された選手団には、宿泊日程の変更や、競技会場のコースオープン日程の変更などを余儀なくされ、大変なご迷惑をおかけすることとなってしまった。

加えて、当時は新型コロナウイルス感染者が確認され始めた中、例年にも増して感染症の予防対策に努める必要があり、そういう意味でも、このスキー国体を無事開催し、終了できたことに心から安堵している。もう一週間、開催時期がずれていたら新型コロナウイルス感染拡大の影響により、昨年の鹿児島国体や今年の秋田スキー国体のように中止せざるを得なかったのではとぞっとしている。まさに、天の時、地の利、人の和、どの条件を欠いてもなし得なかった記憶に残る奇跡のスキー国体となった。

富山県選手団も奮闘し、2種目の優勝を含む10種目で入賞し、男女総合第8位の好成績を収めてくれた。

今回の国体をきっかけとして、スキー競技、またウィンタースポーツがこれまで以上に盛り



上がるよう努めていきたい。

とやま・なんとスキー国体に先だって開催された、スケート・アイスホッケー国体に本部役員として参加したときに、全国の選手団本部役員の方々から頑張れと温かい励ましの言葉をたくさんいただいた。

関係の全ての皆様から感謝申しあげたい。ラグビーについては、大学卒業後も県の成年選抜チームの一員として30歳を越えるまで現役としてプレイした。現在は、両膝が悪くなり、正座もままならない状態となっているが、ラグビーという素晴らしいスポーツに巡り会えたことが、自分の人生において大きな支えとなっている。

一昨年、我が国で開催されたラグビーワールドカップでは、日本はもとより世界中が盛り上がり、ラグビーの素晴らしさが大きくクローズアップされ、実に喜ばしいこととなった。これからの一層の盛り上がりを楽しみにしていただけに、コロナが実に恨めしい限りである。

自分がラグビーに出会うきっかけとなった伝統の魚津高校ラグビー部が休部状態となっていることは誠に寂しい現実である。ラグビー部の復活を切望するとともにお手伝いすることがあれば、少しでも寄与できたらと考えている。



澤田 和博



私が魚津高校を卒業したのは、昭和54年3月である。木造校舎の最後の卒業生でもある私たちの高校時代は今から思うとのんびりした雰囲気は漂っていた。今の生徒諸君には申し訳ないが、7限授業なども無く補習授業などの記憶もほとんど無いので、学習に関してはあまり偉そうなことは言えない。

大学時代は、登山の同好会に入ってから本各地の山に登っていた。そのきっかけとなったのは、高校1年の夏休みに行われた剣岳登山である。当時の記憶をたどってみると、1学期の終業式も間近にある日に体育の先生から「剣岳に行きたい者は講堂に集まれ。」と言われ興味本位で行ってみると、20数人の1年生（男女）が集まっていた。その場で先生から

登山の心得（3点確保など）や親への連絡などの説明があり、数日後には登山に出発していた。小学生の時に立山登山をした程度の初心者がいきなり剣岳の岩登りをしたのだから、安全面などのことを考えると現在ではありえないだろう。小屋に2泊しての登山は思いのほか楽しく、岩登りや雪渓歩きなどを経験して全員無事に帰ってきた。体育の先生数人と生徒20数人で行ったこの登山が当時の魚津高校の雰囲気を物語っている。

大学を卒業し、富山県の社会科（地歴・公民科）の教員となり、気がつくと定年

退職の年齢となった。地理の授業を主にやっていたので、20代から40代にかけては、海外や国内をよく旅行した。「地理教師、行って来たよな嘘を言い。」などと言われたくないという思いもあった。実際、自分の目で見てきた所は説明する際にも自信を持って言うことができた。自分の中で、一番インパクトがあるのは、1991年の8月に訪れた北朝鮮である。当時はまだ、旅行会社主催の北朝鮮のツアーがあったので参加した。当然、日本とは国交が無いので、中国の北京の大使館でビザなどの手続きを行い、北京からピョンヤンへ空路で入り、ピョンヤン市内とパンムンジヨム（板門店）の見学を行い、2泊して帰りは列車で鴨緑江を渡り、中国へ戻った。中国では、東北地方（旧満州）を1週間かけてまわり、農村や旧満州国時代の施設などを見学した。北朝鮮では、車窓から見えた機械化が遅れた人力中心の農村風景と首都ピョンヤンの高層マンションなどが対照的であった。

6年前に魚津高校に赴任し、幸いにも母校で定年を迎えることができた。校舎の3階と4階の廊下側の窓からは富山湾がきれいに見え、晴れた日には能登半島の姿も見ることが出来る。また、教室側の窓からは僧ヶ岳をはじめとする山々が勇壮な姿を見せる。海と山の風景が両方見られる学校は全国でも数少ないのではないだろうか。純朴で努力家が多い生徒たちと熱心で優しい先生方と共に魚津高校で勤務できたことは、大変ありがたいことでありうれしいことであった。今後とも同窓生の一人として母校の発展を見守りたいと思っている。

## 魚高生の活躍（令和2年9月～令和3年2月）

### OTOYAMA 2020 高等学校スポーツ交流大会

#### 陸上競技

- 文部科学大臣特別賞 荒木 翔愛 (2-2)
- スポーツ庁長官特別賞 荒木 翔愛 (2-2)
- 井田 海琉 (2-1)
- 金田 悠汰 (2-1)
- 中村 哉翔 (1-1)

#### 水泳競技

- スポーツ庁長官特別賞 田村 和暉 (3-3)

#### 陸上競技部

- 第57回富山県高等学校新人陸上競技対抗選手権大会
- 共通女子やり投げ 3位 岡 優里 (2-2)
- 共通女子400m 4位 高岸 愛可 (2-1)
- 共通男子八種競技 6位 毛利 建斗 (2-4)
- 共通女子800m 7位 浅倉 胡春 (2-2)
- 共通女子1500m 8位 浅倉 胡春 (2-2)
- 共通男子4×100m 7位 井田 海琉 (2-1)
- 中村 哉翔 (1-1)
- 金田 悠太 (2-1)
- 毛利 建斗 (2-4)
- 共通女子三段跳び 8位 大代 陽香 (2-3)

#### 卓球部

- 令和2年度富山県高等学校秋季卓球選手権大会新川地区予選会
- 女子シングルス 1位 柳川 優奈 (1-1)

### 女子団体 1位

#### 女子ソフトテニス部

- 令和2年度ソフトテニス新川地区総体金尾杯
- 女子団体の部 1位
- 太陽スポーツ杯 第24回新川選手権大会
- 個人戦 一般・高校女子の部
- 越後 成美 (1-1)
- 森 有希 (1-1)

#### 男子バレーボール部

- 新川地区高等学校秋季新人バレーボール大会
- 1位

#### 女子バレーボール部

- 新川地区高等学校秋季新人バレーボール大会
- 1位

#### 放送部

- 第44回全国高等学校総合文化祭
- 放送部門ビデオメッセージ部門 文化連盟賞
- 第32回富山県高等学校文化祭放送部門発表会
- 朗読部門 優良賞 長谷川唯奈 (2-3)
- ビデオメッセージ部門 優良賞
- オーディオ・ビクチャー部門 優良賞

#### 将棋部

- 第31回富山県高等学校将棋選手権大会
- 男子個人戦 3位 荒井 悠希 (2-4)
- 男子個人戦 5位 井川 遥斗 (2-1)

#### 書道部

- 第44回全国高等学校総合文化祭
- 書道部門 文化連盟賞 小坂 みく (2-4)
- 第45回富山県青少年美術展書道部門
- 佳作 小坂 みく (2-4)

#### 音楽部

- 第44回全国高等学校総合文化祭
- 合唱部門 文化連盟賞

#### 囲碁

- 第46回富山県高校囲碁秋季大会
- 男子上級戦 3位 堀田 翔貴 (1-2)
- 女子個人戦 2位 千田 香咲 (1-3)

#### 全国高等学校ビブリオバトル2020 富山県大会

- 優秀賞 本田 なつみ (2-3)
- 図書委員会主催
- 12月読書強化月間一人一冊借りよう運動
- 1位 2年3組
- 2位 1年3組

### 原稿募集のお願い

本校同窓生で「こんな方を知っている」「こんな方が活躍している」という方はいませんか？自薦・他薦は問いません。原稿をお寄せ下さる方募集しています。

### 富山県立魚津高等学校同窓会

〒937-0041 富山県魚津市吉島945番地

TEL (0765) 22-0221

FAX (0765) 22-9970

### 同窓会ホームページ

<http://uozu-dosokai.net/>

### 魚津高校ホームページ

<http://www.uozu-h.tym.ed.jp/>